

令和元年度文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時
令和2年2月17日（月）
開会 午後1時30分
閉会 午後3時
- 2 開催場所
尾張旭市役所2階 201会議室
- 3 出席委員
齋場和志、林 宏、桐原千文、奥野絵美 4名
- 4 傍聴者数
0名
- 5 出席した事務局職員
教育部長 大津公男
文化スポーツ課長 西尾哲弥
文化スポーツ課 田口麻花、藤森あかね 4名

8 議題等

(1) 議題

令和元年度文化財保護関連事業の実績等について

(2) その他

令和2年度予定事業（市制50周年記念事業）について

9 会議の要旨

会長	ただ今から、令和元年度尾張旭市文化財保護審議会を開催いたします。 尾張旭市文化財保護条例の規定による定足数に達しておりますので、会議を始めたいと思います。 議題に入る前に大津教育部長よりあいさつをお願いします。
教育部長	(あいさつ)
会長	ありがとうございました。 それでは、議事に入らせていただきます。 本日の会議は、議題が一つございます。 議題1 令和元年度文化財保護関連事業の実績等について、説明をお願いします。
事務局	(資料1に基づき説明)
会長	ありがとうございました。 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問はございませんか。
奥野委員	学芸員のかたがおひとりなのに精力的にたくさんの展示をされており、特に展示テーマだけではなく、地域性を絡めたものを出して

	<p>いらっしゃる。冬休みの宿題のことも考えて時期設定されて、だんだん進化をされており、素晴らしいと思います。「むかし話の中の道具たち」が、歴史に普段接しない人にも興味を持ってもらえるようなテーマ設定で非常に面白いことをされていると思いました。この資料だけをみていると、どうだん亭・歴史民俗フロアに来ている小学校の方の数が少ないのが少し残念に思います。せっかく面白いことをされているので、広めていかれると面白いと思いました。</p> <p>あと、市民団体の「尾張古文書の会」が展示をされたということですが、古文書の会の人数はどのくらいでしょうか。結構たくさんいらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局	10人弱です。
奥野委員	地域にはいろいろな古文書の会がありますが、このような展示をされるくらい力があるところは珍しいと思いました。これからも市民のかたの展示等をすすめていかれたら良いと感じました。
会長	市民団体との協働イベントは、先回林委員からもう少しボランティアを含めて一緒にやれるような機会があると良いという意見がありました。そのような意味では、一歩前に進めて頂けたという印象を受けました。これは、文化スポーツ課のほうから働きかけて一緒にできた事業なのではないでしょうか。
事務局	展示自体は昨年この団体が公民館で、ご自身で借りられて行っていましたので、「歴史民俗フロアで、もう少し大きくやりませんか」とお声掛けしました。
会長	きっと喜ばれたでしょうね。ありがとうございます。
事務局	昨年この文化財保護審議会のなかで、林委員からなんでもNPO法人に任せるのではなくて、地域の団体等を活用するという御提案をいただきまして、今回、古文書の会と初めて歴史民俗フロアで展示することができました。
会長	そのような情報を委員からいただくのも一つ新しい扉を開くことになると思います。早速やっていただき本当にありがとうございました。
事務局	今後、生涯学習フェスティバルということで、村絵図講座を「ふるさとガイド旭」と行います。地域に根差した村絵図の解説を行います。
会長	市内だけではなくよそからも好評ですよ。
林委員	村絵図講座は30人が定員ですが、定員いっぱいになりました。しかし、難しい問題もあります。昨年は藤池公民館で行い、今年は旭丘公民館で行います。藤池公民館と旭丘公民館は距離が1kmも離れていません。村絵図でいうと、江戸時代の比較的東部の新居村です。そうなる昨年と同じになってしまい、似たような話になるので、参加者が集まるか心配していましたが、今年度また30名を超え、埋

	まっていますようです。
会長	とても良いことだと思っています。目に留まったたくさんの方が関心を持って、募集人数をはるかに超えた人が集まっています。そのような状態は今後どうされますか。募集人数に対してとんでもない数の人が集まってきています。これはとても良いことだと受け止めています。参加希望者を、今後枠を多くして受け入れていくのかどうかまた考えてもらえるとありがたいと思います。
林委員	私も一つお尋ねしたいことがあります。史跡めぐりですが、秋の史跡めぐり B コースは応募者が 97 名います。A コースの応募者も 45 名います。ひとりの参加希望者に第一希望と第二希望と両方採って数字を合わせているのではないですか。
事務局	はい。
林委員	一つのコースが 97 名ということは大変驚きました。ですが、これ本当は違います。A コースと B コース同時に募集をかけていますが、両方とも行きたいという方もいます。第一希望と第二希望を両方採ってそれを足すと A コースが 45 名、B コースが 97 名となっているため、本当の市民の希望者数をどこかに書いておいたほうが正確な情報ではないかと思えます。
会長	この大勢のなかに被っている人がいるということですね。
事務局	A コースは A と B 両方という人を合わせて 45 人ですが、A コースは 24 人第一希望です。B コースの人は第一希望の人は 97 人の内 87 人、第二希望の人は 10 人です。
林委員	そうすると、実数は 87 人ですね。
会長	かなり近い数が出ていますね。やはり魅力的なテーマですね。
林委員	しかし、尾張旭のコースではないです。少林寺以外は名古屋市です。そのようなコースだと人が集まる。尾張旭だけでやるとあまり集まらない、それが悩みです。
会長	企画に対して皆さんが関心を持って下さっているので、そんなに深刻にならなくても良い気がします。
林委員	私も質問よろしいでしょうか。3 年ほど前に、カモシカのあさひちゃんが捕まりましたが、今回の資料でも 1 頭の死骸が出たと見て驚きました。これは新聞に載りましたか。
事務局	新聞には載っていないです。森林公園のほうでもイノシシがよく出るので、イノシシの死骸という形で進めていた途中でカモシカだと分かったので。
林委員	このカモシカの死因は何ですか。
事務局	我々も処理した後の話で、写真でしか確認していませんが、死後かなり経っていました。
会長	場所は池ですか。

事務局	池ではなく保有林です。確かに平成 29 年にニホンカモシカが出た時は、どこに持っていけば良いのか分からなかったもので、愛知県のほうから色々な動物園に声をかけて頂いて、豊橋の「のんほいパーク」に受け入れていただきました。ただし、病気を持っていないことが条件だったので、獣医に診てもらいました。
林委員	もう一つ質問させていただきます。正月にあったカルタ会ですが、長期的にみると参加者があまり増えておらず減少傾向にあります。最初の 1、2 年は 100 名近い参加者がいましたが、今は 50 名くらいです。このままで続けていくしかないのか、どうしたら良いかと思っています。9 つある小学校の先生方が授業やホームルームで郷土学習をするというお気持ちを持っていますか。そのあたりが盛んになれば、学校でやったから市でやるのも参加して賞を取りたいという気持ちが出てくると思います。小学校でカルタは使われていないのでしょうか。
会長	カルタを使った郷土学習はひとつのポイントになってくると思います。そのためには、カルタを使った郷土学習の雛型が欲しいですね。小学校は社会科の先生ばかりではないので。そのような意味では、社会科部会が結構、収蔵庫の様々なものに関心を持っているようなので、そこへカルタを使った郷土学習の雛型を作って話をしてもらおうと良いのかもしれません。中学年くらいに向けて雛型を作ってカルタを使った郷土学習のやり方を示してもらえばやれないことはないと思います。直接頼めば良いのですが文化スポーツ課から話をしてもらった方が多分良いと思います。
事務局	今、社会科部会というお話がありましたが、やはり学校との連携が大事だと思います。現在、学芸員が中心となって進めていることがありまして、学校の先生の中にも尾張旭のことを御存知ないかたもおられるため、カリキュラムに合わせた雛型を使ってそれを先生にお示しし、話し合っ内容を変えていって出張授業を来年から行うことを計画しています。そういった中でカルタのことをアピールしていけると実感しています。
会長	分かりました。先回收蔵庫の資料に関する意見がありましたが、物を使って郷土の学習も昔の暮らしも一つのパックができている。まとまったものを貸出すると学年によってはそれをそのまま使われると思います。mini 民具企画展のなかでいくつか可能なものがあったと思います。そのような物も含めてふるさとカルタでなにか作ってこれを使った授業ができないか先生がたにぜひお声掛けください。おそらく協力してもらえるとと思います。それが、正月のカルタ会に繋がっていくと思います。
林委員	印場城は尾張旭のあまり大きくない城や館の中では、塗り碗や子供の下駄等、非常に画期的な遺物が出たところですよ。それを宝物だ

	からと保存しているだけではなく、子どもたちにも本物を見せてあげると、それがカルタ会にも繋がるかもしれません。
会長	非常に大事なことだと思います。私の住んでいたところには大塚古墳がありますが、どのような生活をしていたのかということ子どもたちに知らせたいと思いますね。それが脈々とあの地で生活していくなかに何らかの形で受け継がれていると思います。今の話の関係で、学校との連携に関して収蔵庫の民具の貸出リストについてお話されましたが、どのような物かまた機会があれば見せて下さい。
事務局	教科書に出てくる物、一般的な物、あまり危なくない物、割れにくい物、数が多い物等です。桐原先生から収蔵庫に保管してある民具をパッケージ化して先生が授業等に使えるようにしたらどうだろうかという意見をいただいて簡単に取りまとめたものが貸出リストになっています。例えば今は小学校3年生の「むかしの暮らし」というカリキュラムがあるのでそれに基づいて貸出リストを作っていて来年度の社会科部会の先生と話し合い勉強を深めていくうえで、欲しいものがあれば準備をしていくという形です。
桐原委員	おそらく社会科の先生方といろいろとやり取りの方向性が出てきているのではないかと思います、実際に出前授業のようなこともされているのですか。
事務局	学校ではないですが、別のところへは行っています。
桐原委員	先生たちに尾張旭に今あるものや尾張旭の歴史等をどのようにものに繋げていく話ができるか学校の先生たちと一緒に考えてやり、授業のなかで学校が子供たちに伝えていただくのが一番現実的な気がします。学校との連携がうまくいき、先生方が一生懸命この地域の歴史や暮らしに関心を持てれば、活用にも繋がっていくと思います。どうだん亭や歴史民俗フロアにも実際に行っていますが、これは先生が宿題を出しているのですか。
事務局	そうですね。連れてこられているので、ここに展示があるということは知っています。
桐原委員	先生が宿題をどのように出されたかは分かりませんが、先生のほうから今の展示と絡めて宿題を出していただけると一番良いと思います。実際にそのような場に行こうという気持ちになってもらうことが大事だと思います。子どもたちに夏休みに博物館に足を運んでもらう作戦で名古屋市の博物館は、「夏的生活」のなかに展示品の紹介を入れることもあります。先生たちが学ぶ中で、実際に見える場所に足を運ぶ機会があった方が良いと思ってくれたらいいですね。
会長	ちょうど「昔の暮らし」が2学期ですから課題を出されたのだと思います。これから毎年ありますのでタイミングは夏休みが一番良いと思います。

桐原委員	先生たちが自分たちも参加してという意識をもってやっていただけると良いと思います。 文化財についてもお聞きします。尾張旭の中には色々な文化財があります。例えば良福寺は非常に歴史あるところだと思いますが、文化財全体として調査されていますか。指定されている文化財以外にも、あるのかどうかは分かりませんがお寺に蓄積されている文化財の調査はされていますか。
林委員	たくさん持っていらっしゃると思います。戦前は尾張3大弘法等のイベントの中で良福寺も退養寺も協力して公開してオープンでしたが、今の和尚さんはあまり見せていないと思います。
桐原委員	お寺も本来はオープンな所なのですが、今はオープンにしたらくんでもないことになります。お寺に鍵をかけないといけない時代になっていますので簡単ではないと思います。
林委員	渋川神社の古文書「おかげ参り」は見せていただくたびに劣化しています。円空仏をスカイワードあさひに置いたようにはならず、自分のところで管理したいという気持ちが強く、寺や神社は一筋縄ではいかないところなのです。
桐原委員	管理をされるのは良いのですが、何があるのかということをして市としても把握しておかないと困ると思います。調査できるといいですね。非常にセキュリティの問題が切実になってきていて、施設に預けるところが多いことは確かです。名古屋市博物館などに預けるところが多いです。
会長	円空仏が典型的ですね。
桐原委員	円空仏のことで確認ですが、今展示している状態でケースの中に入っていますよね。もしも誰かがガラスを割ったとしたら警報は鳴りますか。
事務局	監視カメラのみです。
桐原委員	誰が割ったかは分かるけれど、持っていかれてしまい時間差があると無理ということですね。先程少し覗いてきましたが、誰もいない状態だったので少し怖いと思いました。
事務局	一応吹き抜けになっていますので、音はします。
桐原委員	人がいない状態ではないのですかね。防犯カメラがどこかに繋がっていますか。
事務局	下の管理室です。
桐原委員	管理室では見えているのですか。
事務局	スカイワードは午後9時までですが歴史民俗フロアは午後5時で閉まるようになっています。下の管理室には繋がっていますが、ガラスケースにはついていません。
会長	警報の鳴るものが必要かもしれませんね。
桐原委員	展示室の中に温湿度計が入っていますが、記録をしているもので

	すか。
事務局	違います。
桐原委員	その場だけですか。その時の温度ではなくて変化が一番大事なので、できれば継続してデータを蓄積するようなものにするか、見た目は悪くなりますが、1週間か1ヶ月温湿度計を入れるかした方がいいと思います。例えば、空調が切れた状態から入れた状態になり急激に温度が上がるのは良くありません。データ等継続状態が分かるものを入れて、動きと変化だけは見ておかれた方が良いでしょう。
会長	例えば急に電気が落ちて冷えるもしくは暖まってしまったときの対応としてはどのように活用しますか。
桐原委員	対応としては、もう少しケース的な物で対応するか空調で対応します。日常的にその部屋の状態を知っておき、非常に寒い時期等の対策を考えます。それに対応するとなるとハードの問題になりますが、この部屋はどうなのかということは認識しておいて良いのではないのでしょうか。
会長	人の出入りでどのくらい気温の変化がありますか。
桐原委員	人の出入りでは緩やかな変化だと思います。空調の変化で起きるものが大きいので、寒いときや暑いとき、それから湿度が高いときや乾燥するとき等の状況もあると思いますので、何らかの形で加湿等の方法を考える必要があります。
事務局	展示ケースを設置する際に長期的に湿度の確認をしており、展示ケースの中に調湿剤は入っていますので、湿度の変化はおそらく大丈夫だと思います。
桐原委員	その場その場のものだと記録がないので記録を取っていた方が良いでしょう。例えば、展示ケースに欠陥が生じた場合、どこか開いてきたということが分かりますので、記録は持っていた方が良いでしょう。
会長	大体一週間くらい記録が取れば良いですか。
桐原委員	はい。
会長	そういう意味では、大事にしていることの証明にもなりますね。また考えていただけるとありがたいですね。
林委員	スカイワードあさひの歴史民俗フロアに関連してお願いしたいことがあります。一番南の壁に村絵図の写真のパネルがありますが、カラーの写真が色褪せてしまっているので、何十年に一回は更新していただけないかと思っています。
桐原委員	それは電気で照らすものですか。
林委員	そうです。

桐原委員	<p>どうしても写真が焼けてしまい劣化するので、簡単にパネルにした方がきれいなくらいですね。</p> <p>貼り方やディスプレイの問題もありますので、そう簡単ではないのかもしれませんが、定期的に変えようとするので費用がものすごくかかってしまうので、学芸員のかたが簡単にパソコンで打ち出したものの方がきれいで良いかもしれませんね。</p>
会長	<p>御意見ということで、検討していただければと思います。</p> <p>ありがとうございました。他に何かありますか。</p>
林委員	<p>今いろいろな企画展がありますよね。それらの表題で気になるところがあるのですが、「尾張旭から運ばれた埴輪たち」という言い方が気になっています。言葉は何十年単位で考えれば流れ動いていくものではありませんが、日本語の原則は「たち」という言葉は人間かせいぜい動物までに用いられる言葉で、「道具たち」「埴輪たち」というと展示する人の心が入りすぎて日本語が乱れてしまうのではないかと思います。役所や学校等は、そのような点は保守的でないのではないかと思います。</p>
会長	<p>最近気にならなくなりました。おっしゃることはよく分かりますが、だいぶ慣れました。</p>
奥野委員	<p>確かに子供たちが目にすることを考えると、本来違っている言葉でも正しいと思ってしまうとそのまま慣れてしまう気がします。</p>
桐原委員	<p>展示を企画する側から言いますと、親しみを持ってほしいという意図があります。ものを扱う側は、非常に思い入れがあり、生き物に近いものを感じて企画をしていく部分がありますので、自然に出してしまうことがあります。さらに、展示がとっつきやすいものであって欲しいと思っています。例えば、昔東京国立博物館に行くと、非常に難しいことがたくさん書いてありましたが今はとても分かりやすい展示になってきています。展示を見てもらう・理解してもらおうという考え方に変わってきていますので、難しい問題だと思いません。</p>
会長	<p>ここで出た意見を文化スポーツ課のほうでもしっかり受け止めていただいて、できることをやっていたらという印象を受けました。またやれる範囲のなかでやっていただきたいと思います。</p> <p>それでは、本日の議題を終わらせていただきます。</p> <p>事務局から何かありますか。</p>
事務局	<p>(令和2年度予定事業(市制50周年記念事業)について説明)</p>
会長	<p>それでは、全ての議題が終了いたしました。これをもちまして、令和元年度文化財保護審議会を終了します。</p> <p>ありがとうございました。</p>